

## とうきょう すくわくプログラム活動報告書

所在	世田谷区用賀 2-29-22
園名	世田谷区立用賀保育園

### 1. 活動のテーマ

<テーマ>

ためして、調べて、考えて、たくさんの不思議にふれて遊ぼう！

<テーマの設定理由>

都会のど真ん中にある保育園。少し離れた場所には大きな砦公園があるものの、園庭にはほとんど草も育たず、虫もあまりいない空間になっていました。そんな中でもどろんこスペースやプランターの畑は、子どもたちにとって生き物に触れる貴重な場です。ほんの少し出てくるアリや、ダンゴムシを追いかけ観察する姿。育てた朝顔を夢中になって色水にして遊ぶ姿。そんな子どもたちの探したい、使ってあそびたい気持ちが存分に満足でき、大人も子どもも工夫したり試したりする遊びの楽しさを感じたいと思い設定しました。

### 2. 活動スケジュール

計 画	1期 (5,6月)	園庭改造	泥んこエリアを復活させる 植物が育つことの出来るエリアを拡大するために、プランターや花壇を増やし土作りを行う
	2期 (7, 8,9月)	野草の移植 虫を連れて きて放つ	子どもたちと一緒に、園庭に野草を増やそう計画をたてる 野草のここに植えたい増やしたい種類のリスト作成し、保護者にも呼び掛ける 散歩先で捕まえた虫を園庭に放ってみる 散歩先で摘んだ野草や、子どもたちの好きな草を植えてみる
	3期 (1. 2,3月)	春に向けて の土づくり	枯れた草をある程度抜き取り、芽吹き準備をする 園庭の今の状態を配信し、保護者とも共有する

### 3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

プランター・土・レイズドベッドなどを購入し、草が生えることが難しい土壌の上に新たに土を入れて、野草を植える土台を整えた。キンカンの木を植え、蝶がよべる環境を作った。また、植物や虫への関心や詳しく見たり調べたり出来るように、絵本・図鑑・観察ケースなどを購入し、誰でも使える環境をつくった。

#### 4. 探究活動の実践

プランター、レイズドベッドの増設→植物が育つ土壌を整えた  
観察ケースの導入→各クラスに置くことで、詳しく見てみたいもの(植物に限らず)をいつでも使えるようにしている  
ランチルームの絵本コーナーの一角に植物や虫の本を集めた場所をつくった  
整えたプランターに植物や花を植え、色水あそびや、種を取ってみる遊びへとつなげていく

##### <活動の内容>

園庭に出てくると関心をもってプランターの周りに集まり、花が咲いていると乳児も水をあげたり、間近に見える植物やそれに集まる虫を観察している。室内に持ち帰ったダンゴムシは観察ケースで詳しく見て手足の様子や産卵、幼虫の様子まで観察していた。  
整えたプランターに植物や花を植え、色水あそびや、種を取ってみる、それを別のプランターに植えて芽吹きを観察している様子があった。

##### <活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

花や植物が生えている場所という認識が乳児にも出来てきていて、園庭に出てくるとプランターの様子をじっと見たり水をあげたりする姿が出てきた。朝顔を使った色水遊びを経験したことのない子どもたちが多かったこともあり、保育士がきっかけをつくると、年齢関係なく遊びをまねて広がっていった。  
「どうやるの?」「みて!こんな色になってる!」とビニール袋の中で色が変わっていく様子を、子どもたち同士で見せ合い自然に遊びが伝播していく。

小松菜採りで大きく育ちすぎた株をプランターに植えると「元気ないね」「倒れているよ」と心配そうに見ていた。「お水をあげよう」とジョーロを手にする子どもたち。しばらくすると元気になって上に向かって伸びていくようになり、「春になったらお花が咲くんだよ」と伝えると「何色?ピンク?」など期待して待つ姿があった。花が咲くと小さいハチが飛んできて「つかまえない」「ダメだよ刺されちゃうよ」と言い合う姿もあり、種が出たくさん来ると丁寧にとり、カップに入れてままごと遊びへと発展していった。

つかまえた虫は、容器の中に入れると大きく見える観察ケースに入れてみて、今まで見えなかった体や顔の様子を詳しく見ることができ、虫の他にも見つけた木の実や野菜の葉など身近な興味のあるものを入れて見るようになっている。

ダンゴムシは、室内で飼うことにしてみると、絵本や図鑑をみて葉っぱを好むことがわかり、園庭で拾った落ち葉をケースの中に入れて育てていった。からだ白っぽくなっているのを見つけると「あ、だっぴしたね!」と絵本から得た知識で嬉しそうに知らせてくる子もいた。

「土は乾燥させない方が良くみただよ」と初めのうちは保育士が霧吹きで土に水をかけていたが、興味を持って2歳児もやってみる。扱いが難しくてうまく水が出なかったり、遠くに飛ばしたりしながら、だんだん上手になっていき、その後、制作でも霧吹きを使った遊びが展開していった。



## 5. 振り返り

今年度は土台となる部分の整備に主な活動を置いてきた。観察ケースを豊富に置いたり、色水遊びや種をとれる植物を豊富に植えてみることで、子どもたちが自ら試したり、観察したりすることを見出していく姿をみることができた。子どもたちののびのびとした虫の観察や草花あそびの環境を目指すことは職員間では共通のものであるが、通年通してどの植物をどのように育て増やしていくかということは今後の課題になっている。また、当園の独特の環境の中で何が出来るのかということはある程度やってみてその後の様子を見て対応していくことが必須になってくると考える。

次年度は講師の方に来ていただいて、専門的なアドバイスを受けながら、子どもたちや職員の関心が広がるきっかけにしていく。また、このプログラムについての保護者向けのおたよりの回数を増やしていく。

<振り返りによって得た保育士の気づき>

- ・乳児クラスの子も達でも、身近な自然の少しの変化に興味・関心を持ち、生活や遊びに取り入れていく姿が見られた。各年齢にあった知らせ方を工夫すれば、子どもたちの知的好奇心・探求心を高めていくことができる。
- ・長期にわたり子ども達が楽しめる環境を維持していくためには、自園の環境に合わせた中長期計画を立て継続していくことが重要である。